事業番号	16 01 16	事業改善シート(25年度実施事業分)	口予算要	東求	口当初予算案	☑ □補正予算案 ■点検
事業名		科学捜査力充実事業		į	部局	警察本部
			担 担 当	課·室	鑑識課•科学捜査研究所	
₩	プロジェクト			課	E-mail	police-kanshiki@pref.nagano.lg.jp
総合5か年 計画	施策の総合的展開	4-2 県民生活の安全確保				
I	旭泉の総合印版は	1 犯罪のない安全な社会づくり	実加		実施期間	S29 ~

1 事業の概要

目指す姿	科学捜査資機材の整備・充実に 処して、犯人の早期検挙を図ると。	より、鑑り ともに、収	定業務や鑑識活動の効率化を図り、巧妙化・広域化・スI 2集した証拠の綿密な分析により事件を立証し県民が安	ピード化する犭 全に暮らせる [᠈]	P罪に迅速か・ 社会の実現を	つ的確に対 目指す。
現状			し防止のための死因究明制度等捜査を取り巻く環境の® S科学捜査力の強化、整備が急務となっている。	変化により、客	観的証拠を重	視した捜査
県が関与 する理由	県でなければ実施不可(法令等調 県民との協働による実施: 困難	養務)警	空記の説明、根拠法令等】 察法、警察法施行令、警察官職務執行法、刑法、刑事	訴訟法、犯罪	捜査規範	
	① 成果目標(H25) ○ 重要犯罪の検挙率70% ○ 適正な鑑定業務による誤鑑	だ定の絶知	#			
	②事業内容				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	单位:千円)
	項目	実施方法	H25事業実績		25	H26
				(当初)	(決算)	(当初)
	1. 鑑定·検査用試薬等消耗品	直接	・DNA型鑑定試薬、指紋情報管理システム等消耗品	13,758	13,265	13,758
***	2. 各種鑑定用機器部品交換	直接	・鑑定用機器の部品交換	781	714	799
事業内容	3. 各種鑑定用機器保守等	直接	・鑑定用機器の保守点検	7,956	7,721	8,093
	4. 各種鑑定用機器のリース等	直接	・鑑定用機器のリース料、鑑定機器の整備	86,486	86,075	88,415
	5. 各種学会負担金	直接	・鑑定技術向上のための各種学会への参加	166	166	166

	X	<u> </u>	分(単位:千円)	23年度	24年度	25年度	26年度
	-		前年度繰越				
	予質		当初予算	113,282	110,003	109,147	111,231
事	算額		補正予算				
業			合計(A)	113,282	110,003	109,147	111,231
+			国庫支出金				
\neg	Aσ		県 債				
7	財源	₹ _	その他()	3,333			
ス			一般財源	109,949	110,003	109,147	111,231
۲	決	決 算 額(B)		113,983	108,715	107,941	
	概 算人件費		職員数(人)	0.01	0.01	0.01	0.01
			概算人件費 (C)	83	83	83	83
	概算事業費(B(A)+C)		114,066	108,798	108,024	111,314	

	成果目	標の達成	状況		
項目	H24末		H26		
(大口)	(実績)	目標 成果		達成状況	目標
重要犯罪検挙率	(H19~H23年 平均) 62.7%	(H29) 70.0%	70. 40%	達成	(H29) 70.0%
誤鑑定の絶無	0件	0件	0件	達成	0件

109,147

107,941

111,231

合計

目標に対 する成果 の状況

- 飯田市毛賀における殺人事件等、県下で発生した殺人、強盗、性犯罪、ひき逃げ、覚せい剤事件等、多数の事件解決に貢献し、「長野県総合5か年計画」で指標とした重要犯罪検挙率70%を達成した。
- 適切な鑑定機器の管理、使用に及び、鑑定用消耗品の適正使用等に努め、誤鑑定の絶無を期した。

2 今後の事業の方向性

人名 古光
ラ仮、争耒
をどのよう
今後、事業 をどのよう にしていき
たいか

□ 事業を実施しない □ 事業を見直して実施 ■ 事業を現行どおり実施

刑事裁判において客観的証拠が重要視される中、犯行状況の解明・立証のため、事件の初動捜査において、迅速かつ的確で漏れなく 収集された証拠について、高度な科学技術により適正な鑑定を行なうなど、更なる科学捜査力の充実を図っていく必要がある。